

新入会員歓迎会 高島峻輔市長講演会

～未来を切り拓く対話と協働～

4月8日、ルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールにて、学友会総会に引き続き、高島峻輔市長に「未来を切り拓く対話と協働」と題して語って頂き、新しい仲間40期生の皆さんの入会を歓迎しました。参加者は一般の方を含め256名でした。

講演概要

教育のまち芦屋、国際文化住宅都市・芦屋、芦屋の誇る文化から誰もが一生涯学び続けられる芦屋へ。

子どものころは身体が弱く喘息持ちでした。より良い社会を創る仕事が出来たいと考え、東日本大震災の福島で現場と学び舎を往復して学びを深めました。ハーバード大学に進学後も



現場と学び舎を往復するため休学を決断、その後、芦屋市役所でインターンシップに取り組みました。市役所は市民に最も身近な存在であり暮らしを良くできると考えました。

市民との「対話」で創った令和6年度の施政方針。何歳になっても生き生きと活躍できる芦屋、圧倒的に子育てしやすい芦屋、最高の学びができる芦屋を市民の皆さまとともに創り上げてまいります。

認知症対策では、認知症になっても安心して外出できるように万が一の支援として認知症高齢者個人賠償責任保険を設置しました。また、市長は励ますことに徹してすべての中学校で意見交換。市役所が誰よりも子どもたちの可能性を信じて子ども中心の学校づくりを進め、その結果授業を創りました！校則を変えました！市民と市長との対話集会では批判より提案を、要望よりお誘いを頂けるような行政に。市がやらないのはおかしい！税金払っているんだから市がやってよ。どうせ市は何もやってくれないではなくて、私たちがまずは動いてみる、市は後から助けての考え方に。

以上の取り組みにより世界で一番住みたい街を目指して挑戦し続けます。

質疑

市議会に留意しての回答になるとのことでしたが、懇切に対応して頂きました。

①認知症対策の財源は？市民のボランティアで対応するという考えはどうですか。

……………保険があるからと言っていくらでも事故を起こしていいというものではありません。芦屋市には一人一役運動というのがあるので役に立つと思います。

②世界一のいい町にしたいのでたばこの吸い殻やペットボトルなど持ち帰るようなマナーが大切。

…………マナー条例はありますが、歩きたばこやポイ捨てなど本当に出来ているのかなと思います。清潔で安全快適な生活環境に関する条例があり、ぜひ見てください。

③芦屋市の人口9万人に対して全国よりは低いが約1,900人、2%ほどの外国人への対応は。…………芦屋市は県の中では外国人が多いエリアに指定されており、子供たちのために、日本語の先生やボランティアの皆さんを増やそうとしています。また、親への対応を含めて体制の整備を進めています。国際交流センターでの活動にも出来るだけ参加してください。

④芦屋浜の結婚式場が売りに出されると聞いています。取り壊されると景観が悪くなると思いますが。

…………当該の施設は県が対応していますが、市も情報交換をしていて、いい環境を守っていきたい。

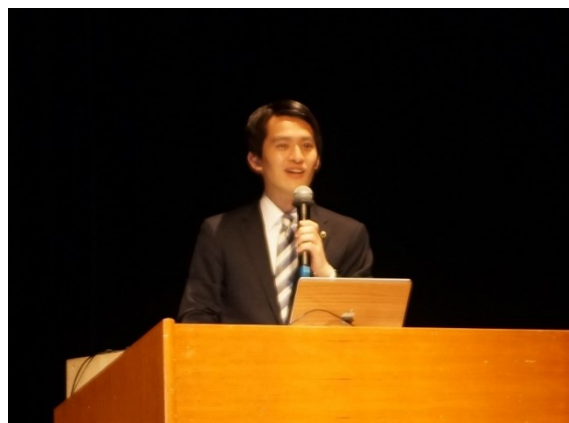
⑤市長は若くて未来がまだまだあります。日本全体のため、世界のためにその体力、知力を使って頂きたい。将来の夢をお聞かせください。

…………一番身近で一番社会を変えられるのが市長の仕事だと思います。アメリカで感じたのは日本の存在感はなくてそれは中国とインド。そこで日本のプレゼンス、存在感を上げる仕事かしたいと思っており、芦屋で今取り組んでいます。頑張りたいと思います。

(広報・兵東記)



高島峻輔芦屋市長





司会の越智会長

